



# 社会新報

(岡山県連合版)

毎月1日発行  
2012年6月1日

社会民主党全国連合機関紙宣伝局(毎週水発行)  
〒100-8909 東京都千代田区永田町1-8-1  
Tel.03-3592-7515 1部180円/月 700円/年

岡山市北区弓之町5-7 Tel.086-226-1234

発行責任者 武本恒夫

http://www.sdp.or.jp/okayama/index.html e-mail: sdp\_okayama@helen.ocn.ne.jp



県連合新3役 左から 井上・福島・武本

**新代表 福島捷美** (写真中央)  
”実行力を問われる党県連合”  
スポーツ界の格言は「練習はウソをつかない」。長島、王、落合、イチローしかりである。また、記者席の格言は「記事はデスクが書くものではなく、足で集めるものだ」ということがある。翻って、私の県議選のとき、当選を予測したのは20人ほどいた記者の中で、唯一人私に終始密着をしていた女性記者のみです。まず先に行動する党県連合を目指して頑張ります。

**新幹事長 武本恒夫** (写真右)  
幹事長に就任しました、武本です。大役を担う立場で非常に身の引き締まる思いです。さて、私たち国民の眼前には多くの難題があり、脱原発・消費増税反対・社会保障制度の改正等々、また、低所得者には生活苦が重くのしかかっています。私たち社民党は国民の生活再建に向けて努力していきます。党员・支持者の皆さんの力が必要です。ともに頑張っていきたいと思います。

- 新4役体制
- 代表 福島捷美(新)
  - 副代表 井上昭雄(再)
  - 副幹事長 武本恒夫(新)
  - 幹事長 矢吹準一(新)
  - 副幹事長 野崎保(再)

**政治に信頼を取り戻す 社民党の思想と理念を**  
初めに藤田代表は、「政治不信の拡大は小選挙区制導入が最大の根源、政権交代だけが目的化され、思想と理念がなかった。小さくなった社民党だが、大衆の中に思想と理念を広めていくために全力をあげよう」と述べました。続いて来賓からは、古矢副

知事に続いて、伊東倉敷市長が初めてあいさつ、2期目の抱負と選挙での応援のお礼が述べられました。小林岡山市議は、「人間の尊厳を護る原点に立ち運動を進めてほしい」とエールを送りました。新社会党、岡山地区党に続き、全国連合の中川

活動方針では「高速バス事故からなにを学ぶか。規制緩和で労働者、国民がしわ寄せを受けている。規制緩和の問題点を調査・点検・掘り起しで、見える党活動にしていく」運動を補強意見として取り入れ、関連して私鉄の仲間から

井上副代表の司会で始まり、まず昨年の3・11東日本大震災で亡くなられた方々に黙とうし、井原支部・畑地さんを議長に選出しました。



社会民主党岡山県連合 第11回定期大会

## 党県連合第11回定期大会を開催し、県民・市民の期待に応える活動方針と新役員選出

組織局長は、「脱原発は生活再建そのものの戦い、政権交代の意味を逆戻りさせないために総選挙に全力を」と訴え、

金子中国ブロック議長も「比例票拡大の選挙方針を早期に出す。活動者交流会で意志統一を図る」と述べました。

**党費引上げ(七月)**  
年金・女性党費引上げ案は「わずかな年金に、引上げは家族党员や新報代など重なる大きな負担になる。事情を考慮してほしい」との発言が考慮される。支部で要請があれば説明に向く。「家族党员の負担を考慮するなど、引上げ絶対でなく、相談があれば個別対応していく」とし、引上げ7月実施で予算案を承認

「かつては深夜など運行規則など組合が関与、いま規制緩和で、起きるべくして起きた事故。労働組合がもっと役割を果たさなければ」と、党や組合の大切さを強調する発言がありました。

**「新報」読者会**  
毎月・第2水曜日 18時  
6月13日 7月11日

**弓之町「時事問題懇話会」**  
毎月・第3金曜日 18時  
6月15日 県連合

いずれも同じ場所  
社民党県連合会議室

「かつては深夜など運行規則など組合が関与、いま規制緩和で、起きるべくして起きた事故。労働組合がもっと役割を果たさなければ」と、党や組合の大切さを強調する発言がありました。



京スカイツリーが5月22日、開業。前日には金環日食で、2日続けて日本中が天空に話題をさせた。天体の運動は何百年先でも計算で動きが予測され、ツリも計算し尽くされ、科学の成果といえよう。歴史的には源平合戦で水島の合戦時に出現した日食に源氏は狼狽し、平家は陰陽師の「科学」で事前に日食を知り混乱する源氏に攻め勝ったという▼ところが高さ634mに決まったのは、「ムサシ」のゴロだったとか。科学の粋も棟梁に似た生きた人間のなせる業のように、どこか人間らしさがあつてホツとする▼一方、大阪維新の会がすすめる条例の「発達障害は家庭の愛情欠如」に「非科学的」の批判の声があがっている。人をつくる教育の場で、首長の恣意(独裁)で左右することが「民意」ではあるまい▼大会で新役員体制を選出、予算的に専従書記をなくしたが、業務は継続担当、四役も毎日県連合に出て、活動の先頭にたっている。(の)